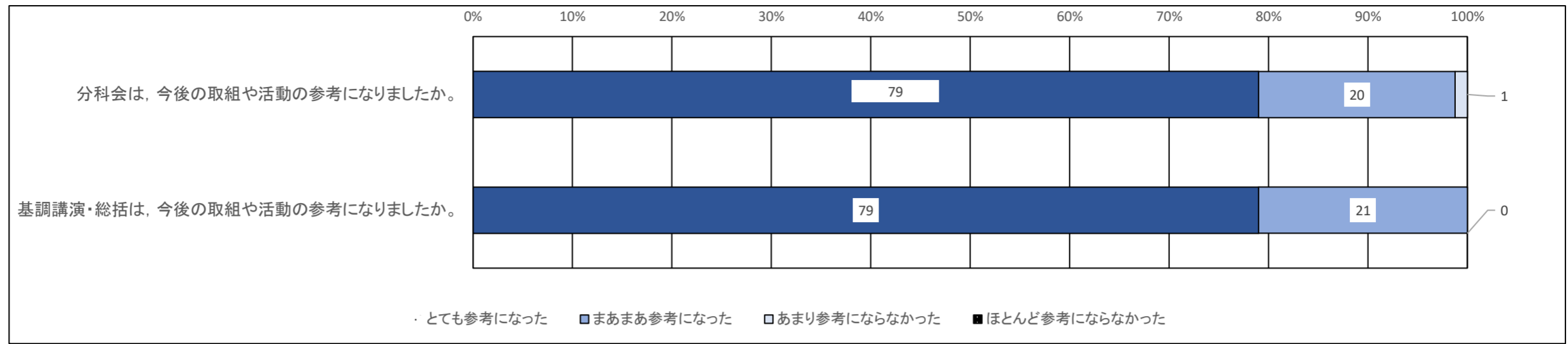


令和3年度実践交流会参加者振り返りアンケート集計

【集計結果】



【振り返りアンケートの記述内容から】

分科会に関する記述

（第1分科会）専門性を活かした地域人材の育成及びその活用は、今後の地域づくりに欠かせないものだと思います。改めて人づくり・つながりづくり・地域づくりの本質に触れた気がいたしました。

（第2分科会）全国的に課題となっている、学生との協働に焦点を当てた事例発表に学ばせて頂きました。特に高校生との協働は難しさを感じているだけに、参考になりました。

（第3分科会課題①）新しい方法の分科会よかったです。事前に観ておく発表が短くて、負担なくインプットできました。今日は話し合う時間がもっと欲しいと正直思いましたが、論点も明確で、よかったです。なぜかいつもより事例発表者の方との距離が近く感じました。

（第3分科会課題②）各地の公民館の方々も同じように悩まれていたことを知り、コロナのこと、改めて恐ろしい存在だなと思ってしまいました。納得解・最適解を探すためにも、規模に関係なくこのような機会をたくさんもつことが必要だと感じました。

講演・総括に関する記述

○基調講演は、社会学等の様々な統計データからの読み解きや社会制度の変遷をたどりながら、今の時代の現状を捉え直す視点でのお話で大変分かりやすかった。コロナ禍で何をすればいいのかわからないときに、「生涯学習とは地域の実情に即した学習であり、かつ住民自身の学習であるということに立ち返る」という先生の言葉が印象に残りました。また、多様な課題がある地域社会や団体活動において、気づいた時点をその気づきを共有することが第一歩という、シンプルだけど大事なことをご指摘いただいたりと、示唆に富むお話でした。

○各分科会の様子を知ることができてよかったです。自分が参加した分科会（第2）を的確にまとめられた話を聴くことができ、あらためてどういう話し合いがあったのか振り返ることができました。坂口先生の総括での「モヤモヤを口にだす」「となりの人に話しかける」「カタチになっていないことを口にする」などの言葉が印象に残りました。

日程や実施方法に関する記述

○発表者と直接対話をしながらの交流が大変参考になりました。

○コロナ禍もあり、新しい学びのスタイルやコミュニティの必要感を強く感じています。一方で、河内さんがおっしゃっていた「取りこぼし」も心配です。そんな意識、視点を持って、オンライン上で語り合えるのはいいですね。

○実施方法がとても参考になりました。ピンチをチャンスにしていってほしいなあと感じました。グループで話し合う時間はもう少しほしいです。